

わが青春つきるとも



—伊藤千代子の生涯—

上映運動北海道実行委員会ニュース

2023年1月18日 NO 8

〒065-0018 札幌市東区北18条東15丁目3-6 ブランノワールF101号

☎011-374-8280 FAX011-374-8281

千代子の生涯は勇気と希望の道しるべ

第3次上映へ 知恵と力を合わせよう！



伊藤千代子の映画は、昨年暮れで、全国419会場、7万5千人という、自主上映ではかつてない多くの方々が鑑賞する大成功をおさめ、とりわけ、戦争を知らない若者に感動と共感が広がっています。

ご尽力・ご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

27年間埋もれていた千代子の最後の手紙が、元苫小牧市議の畠山忠弘さんの大変なご尽力で発見され、苫小牧市立中央図書館に保管され、また、郷里からの最後の学費で東京女子大の卒業を迎える直前、千代子は卒業を断念する犠牲を払い、これを、普通選挙で北海道から立候補した山本懸蔵の東京からの旅費に差し出し、小林多喜二の応援演説が実現する等、北海道は、遠く長野で生を受けた千代子と深い縁と強い絆で結ばれています。

千代子は、反戦、自由、平等、民主主義のために闘い抜き、治安維持法による最初の女性の犠牲者として24歳の若さで獄死しました。

タモリさんが、「徹子の部屋」で「来年は新しい戦前になるんじゃないでしょうか」と発言されましたが、敵基地攻撃能力や防衛費増額等、国会審議も国民への説明も一切せず、戦後日本の国のかたちを変える岸田政権の大転換に、国民の怒りは具体的な行動となって広がっています。「戦前のあの過ちを繰り返すな」という憲法の誓い・9条を守るため、千代子の生涯は、私達に勇気と希望を与える大きな道しるべとなっています。

第3次上映会を成功させるため、知恵と力を合わせ頑張りましょう。



第3次上映会日程

NO	実行委員会	月日	場所	上映時間	連絡先
47	札幌手稲区実行委員会	2月19日(日)	手稲区民センター	①14時 ②17時30分	作田 090-5982-3867
48	当別町実行委員会	3月21日(祝)	ふれあい倉庫	①13時 ②15時30分	藤岡 090-3890-2048

16実行委員会、個人から 募金82万円！

全道179自治体での上映をめざして、オルグ活動や上映器材の購入のために、全道の実行委員会宛に募金を呼びかけました。1月15日現在、16実行委員会、個人4人から82万511円の募金が寄せられています。

す。今後も、オルグ費用などがかかりますので、さらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

★募金を寄せて頂いた実行委員会★

苫小牧、江別、道南、札幌東区、札幌白石区、旭川、小樽、上川、札幌豊平・清田区、余市、北広島、北見、西胆振（虻田、伊達）、西胆振（室蘭）、南空知、南空知（由仁）

★400 会場・7 万人達成記念・全国交流会★

2022 年 12 月 22 日 全国 32 会場、北海道 8 会場参加

昨年 12 月 22 日、全国 400 会場、7 万人の鑑賞者達成を記念して、オンラインで全国交流会が開催されました。北海道の取組を畠山副実行委員長が発言しましたので、以下紹介します。

北海道での製作・上映運動の到達と今後の方針について

酷寒の北海道から心を含めて連帯のあいさつを送ります。

北海道は、2020 年の年頭から千代子映画製作支援の取組を進め、これまでの 3 年間で上映債権 75 口、750 万円を集め送金してきました。第 2 次上映期間には 6,411 人が足を運んでくださり、嵐のような感動を呼び起こしました。

特に、北海道唯一の政令都市札幌は 10 区全部での上映を目標に取り組み、8 区で上映しました。道内 35 ある市では 17 市で、130 ある町では 12 町で上映しました。札幌 10 区を入れれば、北海道の自治体数は 188 で、その約 18.6%になります。まだ初歩的成果ですが、全道のコロナ蔓延、不況と経済苦の中で、言い尽くせない数々の困難を乗り越えて創り出した教訓は宝の山です。ここに、北海道の上映自治体の地図を示します。まだ圧倒的に空白ですが、あと 2 年間で全

の自治体を巻き込んだ上映運動を作っていくのが私たちの課題です。今回の取り組みで大きな展望が見えてきましたのでその点を述べます。第一は、学習運動が大きな推進力になりました。5 人以上の小規模学習会も入れ、3 年間で 50 回の学習会、講演会が持たれ、920 人が参加しました。これは北海道実行委員会の集計ですから各実行委員会独自の学習会を入れれば、もっと多くなるでしょう。ここに参加した人の情熱と心意気が、広い北海道の距離を乗り越え、希薄な人口密度を乗り越え、全国一蔓延しつつあったコロナに負けずこの取り組みをすすめたのです。今後は圧倒的に全道各地で学習会が広がるよう、講師養成講座をやって確信持って上映運動に取り組んでいく事、この点が一番大事です。

第二は、取り組んだ感想は、圧倒的に「上映に取り組んでよかった」というものでした。財政的にも成功で大喜びです。鑑賞した人の感想も圧倒的に「感動した。千代子に学びたい。このままの生活でよいのか考えさせられた。製作上映運動に携わった人たちに感謝したい。」というものでした。これは取り組んでみて初めて持てる確信ですここに自信をもって運動を広げていく事です。その町の映画上映で実行委員会の解散でなく、全道に広がる運動こそ大事だと言う事を徹底することです。どうしても解散となる場所は受け皿を残していく事です。

第三に、広い北海道を 14 のブロックに分け、すでに上映したところも含めて多くの人に見てもらうにはどうしたら良いか、連携してすすめることです。これからは小規模人口の市町村の多くで取り組まれるでしょう。このようなところでは、ブロック毎に計画を立て、上映債権を効果的に活用できるように工夫して進めることです。そのことが今後決め手になるでしょう。

第四に、最後ですが、小規模な自治体の中には、劇映画上映の設備がないところもあります。そこで道実行委員会がプロジェクター等の上映機材を購入して持ち込むことを決めました。組織オルグ派遣も今以上に必要です。そこで実行委員会の活動資金カンパを訴えています。今後どのように進展していくか、今のところ見通せませんが、こうして第 3 次上映に向かう方針を討議しています。いかなる困難も、これまで克服してきたことに比べるなら「乗り越えられない困難はない」と思います。3 年前の映画製作運動当初から見ると現在の成功をいったい誰が予測できたでしょうか。情勢はますますこの映画の上映が待たれています。共に奮闘し、新たな地平を切り開いていきましょう。

全道 179 自治体に

千代子のこころざしを届けよう！

